

幼児の身体表現指導における指導実践後のふりかえりの有効性

The Effectiveness of Debriefing After the Instruction Practice in the Expressive Body Movements Instruction of Children.

高原 和子・小川 鮎子*・瀧 信子**
矢野 咲子**・下釜 綾子***

Kazuko Takahara・Ayuko Ogawa・Nobuko Taki
Sakiko Yano・Ayako Shimogama

Keyword: 身体表現指導, 幼児, 模擬保育, ふりかえり

はじめに

保育者養成校における身体表現指導法の学習では、最終的には、直接幼児を対象とした指導実践（以下幼児指導）を行うことが学生の指導技術を身につける上で必要となる。学外実習等がその実践の場となるが、学内における「身体表現」系科目の受講のみで、指導の経験がないままいきなり現場実習に臨むには、些か無理がある。特に、学生が直接幼児を指導する場合、指導技術の課題が散見される。そのため、学外実習など実践現場で指導を行う前に、学内において学生を幼児に見立てて指導実践すること（模擬保育）などを実施し、事前の段階的な指導実践を行うことが不可欠である。

これまで筆者らは、その効果的な段階的指導法を探ることを目的に検討を重ねてきた。先行研究では、一連の指導実践をとおして学生は、自分自身の指導における課題を捉え改善することができるようになることが解った。また、模擬保育による経験だけでなく、模擬保育後に行うふりかえりや指導教員による助言が、それまで気づけなかった指導のポイントを洗い出し、指導技術の次へのステップとなることが確認された。さらに、ふりかえりから指導上の課題が明らかになり、指導案で計画した活動内容を事前に学生自らが体験す

ることの必要性も認められた。このように、模擬保育後に行う「ふりかえり」をその後の指導に有効に活かしていくことの重要性が示唆されている。

そこで本研究では、この「ふりかえり」に着目し、活動後の「ふりかえり」の役割とその後の指導にどのように活かされたか、事例をもとに検討した。

方 法

(1) 研究対象および指導実践

対象はF大学学生17名で、そのうちの大半が保育所や幼稚園といった保育現場で定期的に保育補助のボランティアを行っており、幼児との関わりを経験していた。学生は4グループに分かれ、それぞれのグループで「幼児の身体表現遊び」の指導案を作成し、指導計画を行った。その後、それぞれのグループのメンバーが指導者となりグループ以外の学生を幼児に見立てて模擬保育を行った。次に、模擬保育を行った指導案の中から一つを選び、活動プログラムはそのまま、内容（援助や配慮）を再考して幼児を対象にした幼児指導を行なった。

(2) 指導実施日と指導の対象

指導実施日（模擬保育および幼児指導）とその際の指導の対象については、表1のとおりである。

* 佐賀女子短期大学

** 福岡こども短期大学

*** 長崎女子短期大学

表1 模擬保育・幼児指導の実施日と指導する対象

指導形態	実施日	指導する対象
模擬保育	2011年6月17日	学生17名
幼児指導	2011年7月8日	5歳児33名

(3) ふりかえりの方法

指導後のふりかえりは次のとおりである。まず、指導者、幼児役（模擬保育の場合）それぞれが模擬保育および幼児指導の実践直後に「ふりかえりシート」（図1）を用いて個別に活動をふりかえる。「ふりかえりシート」では、プログラムの進め方、プログラ

図1 ふりかえりシートを利用した活動後の評価とその項目

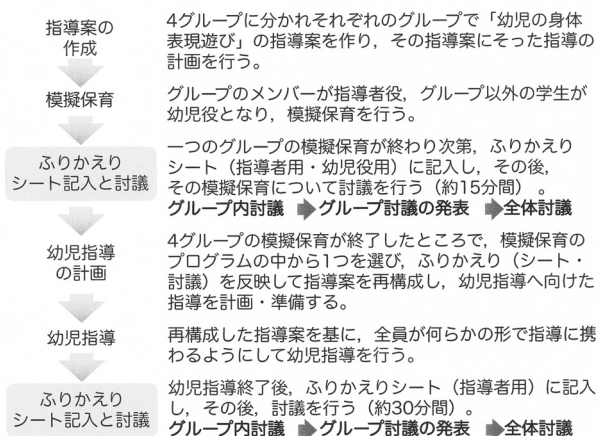
模擬保育および幼児指導の活動後にシートを使って①から⑪について5段階で評価し、⑫⑬は気づきを自由記述で記入した。

- | | |
|---------------|---------------------|
| ① プログラムの進め方 | ⑦ 援助や配慮 |
| ② プログラムの内容 | ⑧ 活動時間 |
| ③ 設定年齢と活動との合致 | ⑨ 安全面への配慮 |
| ④ 動きの提示 | ⑩ 導入の仕方 |
| ⑤ 動きの引き出し方 | ⑪ まとめの仕方 |
| ⑥ 言葉かけ | ⑫ 指導者または幼児に対して感じたこと |
| | ⑬ その他（気づき・感想など） |

<ふりかえりシートの例>

<p style="text-align: center;">模擬保育での 指導者用シート</p> <p style="text-align: center;">次の対局する言葉のどちらに近いですか？ 1～5の番号に○をつけて下さい。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. プログラムの進め方</td> <td>どこがおる1 2 3 4 5] スムーズ</td> </tr> <tr> <td>2. プログラムの内容</td> <td>悪かった1 2 3 4 5] 良かった</td> </tr> <tr> <td>3. 設定年齢と運動あそびは</td> <td>合っていない1 2 3 4 5] 合っている</td> </tr> <tr> <td>4. 動きの提示</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>5. 動きの引き出し方</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>6. 言葉かけ</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>7. 援助や配慮</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>8. 活動の時間</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>9. 安全面への配慮</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>10. 導入のしかた</td> <td>悪かった1 2 3 4 5] 良かった</td> </tr> <tr> <td>11. まとめのしかた</td> <td>悪かった1 2 3 4 5] 良かった</td> </tr> </table> <p>12. 幼児役に対して感じたこと</p> <p>子どもってびっくり多かった。 リアクションが大きすぎてやりやすかった。</p> <hr/> <p>13. その他（気づき・感想など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこまで子どもの自主性を重んじるのか、保育者の提示を多くした方がいいのかわからなかった。 ・教材をもっと研究すべきと考えた。（ルーシーのおき方など） ・子どもの行動の予想や行動に対する言葉かけをもっと考えておくべきだった。とっさの言葉かけが難しかった（言葉がでなかった）。 	1. プログラムの進め方	どこがおる1 2 3 4 5] スムーズ	2. プログラムの内容	悪かった1 2 3 4 5] 良かった	3. 設定年齢と運動あそびは	合っていない1 2 3 4 5] 合っている	4. 動きの提示	不適切1 2 3 4 5] 適切	5. 動きの引き出し方	不適切1 2 3 4 5] 適切	6. 言葉かけ	不適切1 2 3 4 5] 適切	7. 援助や配慮	不適切1 2 3 4 5] 適切	8. 活動の時間	不適切1 2 3 4 5] 適切	9. 安全面への配慮	不適切1 2 3 4 5] 適切	10. 導入のしかた	悪かった1 2 3 4 5] 良かった	11. まとめのしかた	悪かった1 2 3 4 5] 良かった	<p style="text-align: center;">模擬保育での 幼児役用シート</p> <p style="text-align: center;">次の対局する言葉のどちらに近いですか？ 1～5の番号に○をつけて下さい。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. プログラムの進め方</td> <td>どこがおる1 2 3 4 5] スムーズ</td> </tr> <tr> <td>2. プログラムの内容</td> <td>悪かった1 2 3 4 5] 良かった</td> </tr> <tr> <td>3. 設定年齢と運動あそびは</td> <td>合っていない1 2 3 4 5] 合っている</td> </tr> <tr> <td>4. 動きの提示</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>5. 動きの引き出し方</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>6. 言葉かけ</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>7. 援助や配慮</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>8. 活動の時間</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>9. 安全面への配慮</td> <td>不適切1 2 3 4 5] 適切</td> </tr> <tr> <td>10. 導入のしかた</td> <td>悪かった1 2 3 4 5] 良かった</td> </tr> <tr> <td>11. まとめのしかた</td> <td>悪かった1 2 3 4 5] 良かった</td> </tr> </table> <p>12. 指導者役に対して感じたこと</p> <p>いきいきしていた。 楽しそうだった。 子ども（幼児役）をちゃんと見ていた。 言葉かけが上手だった。 子ども（幼児役）の発言を拾ってくれた。 準備ができていた。</p> <hr/> <p>13. その他（気づき・感想など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の話を真似するだけでなく、空想しっぱいオリジナルストーリーにアレンジしてあったので、活動がさらに楽しくなったと思う。 ・ルーシーの流しは、雰囲気が出て良かった。 ・ゴールの真珠灯台が遠すぎて、壊れてしまった。実際の子どもにするには長いのではないかと考えた。 	1. プログラムの進め方	どこがおる1 2 3 4 5] スムーズ	2. プログラムの内容	悪かった1 2 3 4 5] 良かった	3. 設定年齢と運動あそびは	合っていない1 2 3 4 5] 合っている	4. 動きの提示	不適切1 2 3 4 5] 適切	5. 動きの引き出し方	不適切1 2 3 4 5] 適切	6. 言葉かけ	不適切1 2 3 4 5] 適切	7. 援助や配慮	不適切1 2 3 4 5] 適切	8. 活動の時間	不適切1 2 3 4 5] 適切	9. 安全面への配慮	不適切1 2 3 4 5] 適切	10. 導入のしかた	悪かった1 2 3 4 5] 良かった	11. まとめのしかた	悪かった1 2 3 4 5] 良かった
1. プログラムの進め方	どこがおる1 2 3 4 5] スムーズ																																												
2. プログラムの内容	悪かった1 2 3 4 5] 良かった																																												
3. 設定年齢と運動あそびは	合っていない1 2 3 4 5] 合っている																																												
4. 動きの提示	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
5. 動きの引き出し方	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
6. 言葉かけ	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
7. 援助や配慮	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
8. 活動の時間	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
9. 安全面への配慮	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
10. 導入のしかた	悪かった1 2 3 4 5] 良かった																																												
11. まとめのしかた	悪かった1 2 3 4 5] 良かった																																												
1. プログラムの進め方	どこがおる1 2 3 4 5] スムーズ																																												
2. プログラムの内容	悪かった1 2 3 4 5] 良かった																																												
3. 設定年齢と運動あそびは	合っていない1 2 3 4 5] 合っている																																												
4. 動きの提示	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
5. 動きの引き出し方	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
6. 言葉かけ	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
7. 援助や配慮	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
8. 活動の時間	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
9. 安全面への配慮	不適切1 2 3 4 5] 適切																																												
10. 導入のしかた	悪かった1 2 3 4 5] 良かった																																												
11. まとめのしかた	悪かった1 2 3 4 5] 良かった																																												

図2 模擬保育から幼児指導までの流れ



ムの内容、設定年齢と活動との合致、動きの提示、動きの引き出し方、言葉かけ、援助や配慮、活動時間、安全面への配慮、導入の仕方、まとめの仕方の11項目について5段階で評価し、その上で、対象者に対して気づいたことを自由記述で書かせた。「ふりかえりシート」記入時間を約10分とった後、グループ内討議と全体討議（指導教員からの助言含む）を行った。

以上の模擬保育から幼児指導までの一連の流れを図2に示す。全ての指導実践（模擬保育および幼児指導）とその後のふりかえりおよび討議の様子はすべてVTR撮影し、本研究の分析の資料とした。

結 果

幼児指導として選んだのは、絵本を題材にした「真珠灯台へ行こう」というタイトルの指導案であった。活動プログラムの内容は、図3に示す。この指導案で行った模擬保育および幼児指導の評価の結果を以下に示す。

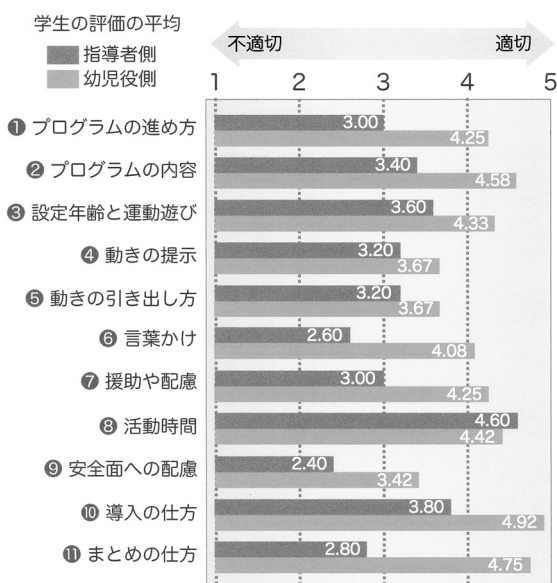
図3 活動プログラムの内容

絵本『ぐりとぐらのかいすいよく』を題材にした「真珠灯台へいこう」というタイトルの指導案を立案。
絵本の物語をヒントに真珠灯台めざして海の生きものになって泳いだり、波をかわしたり、うみぼうずに出会ったりして冒険を楽しみながら身体表現活動を行う。

(1) 模擬保育後のふりかえりシートによるふりかえりと討議について

模擬保育後の「ふりかえりシート」による評価の結果を図4に、自由記述部分を図5に示す。指導者側で高く評価していたのは、活動時間、導入の仕方、設定年齢と活動との合致で、低く評価していたのは、安全

図4 模擬保育後の5段階評価



面への配慮、言葉かけ、まとめの仕方であった。一方、幼児役側の評価で高く評価していたのは、導入の仕方、まとめの仕方、プログラムの内容で、評価が低かったのは、安全面への配慮、動きの提示、動きの引き出し方であった。

学生間の討議の中では、特に安全面への配慮や指導者の援助・配慮、言葉かけの工夫といったことが討議された。

(2) 幼児指導後のふりかえりシートによるふりかえりと討議について

幼児指導後の「ふりかえりシート」による評価の結果を図6に、自由記述部分を図7に示す。

模擬保育で得られた課題を検討した上で幼児指導に臨んだ。その結果、模擬保育でも評価の高かった導入の仕方、まとめの仕方、活動時間の評価が高かった。一方、課題となっていた安全面への配慮では、模擬保育の結果を受けて十分検討したにもかかわらず、幼児指導においては、予測できない幼児の行動に十分に対応できず、安全面への配慮に欠ける場面があり、ふりかえりでの評価も最低であった。また動きの引き出し方や配慮や援助といった項目も評価が低かった。

図5 模擬保育後のコメント

幼児役・指導者に対して感じたこと

- | | |
|---|---|
| <p>指導者 → 幼児役</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ よく動いていた (4) ◆ 楽しんでいた (2) ◆ 発言が積極的だった (1) ◆ 予想外の動きが多かった (1) ◆ リアクションが大きい (1) ◆ 子どもっぽかった (1) <p>指導者の気づき・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 予想外のことに対応しきれなかった。 ● どこまで幼児役の自主性を尊重したら良いかわからなかった。 ● 教材をもっと研究すべきだった (ブルーシートを使うことの危険性)。 ● 動きのイメージを広げる上手な (臨機応変な) 言葉かけができなかった。 ● 幼児役と共感しながら動きを楽しむためにも、指導者も一緒に動きながら指導するべきだった。 | <p>幼児役 → 指導者</p> <p>高評価的コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 準備ができていた (6) ◆ 道具の使い方や仕掛けの工夫が良かった (13) ◆ 幼児役の発語を拾っていた (3) ◆ いきいきして楽しそう (3) ◆ 言葉かけや説明が解りやすい (5) ◆ 絵本からの導入がよかった (7) ◆ 絵本にそったストーリー展開がわかりやすかった (5) ◆ 指導がスムーズだった (4) <p>低評価的コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 指示がはっきりせず、声の大きさの工夫が必要 (3) ◆ 安全面の配慮が足りない (3) ◆ 動きの工夫がなかった (6) |
|---|---|

() 内数字は件数

図6 幼児指導後の5段階評価



図7 幼児指導後のコメント

- 幼児に対して感じたこと
指導者（学生） ➡ 幼児
- ◆ 元気 (13)
 - ◆ よく走る (3)
 - ◆ 自由 (4)
 - ◆ 予想外 (9)
 - ◆ 暴走する (3)
 - ◆ 自分勝手 (1)
 - ◆ イメージが豊か (4)
 - ◆ 動きが多彩 (4)
 - ◆ ノリやすい (4)
 - ◆ 楽しそう (3)
 - ◆ 誰かの真似をする (5)
 - ◆ 友だち思い (4)
 - ◆ 素直 (3)
 - ◆ 遊びに熱中する (2)

学生の気づき・感想（討議後）

- 子どもは元気すぎるくらい元気で、はしゃいだり、さわいだり、ちよっかい出したりする。
- 子どもはちょっとしたことにもすぐに反応し、興味が移っていきやすい。
- 予想外の子どもの動きや反応があり、シミュレーションしたときには想像しなかったことが多々あった。
- 子どもの発想や表現は多彩で、想像以上に豊かですばらしかった。
- 指導者は臨機応変に対応することが求められることが分かった。
- 指導案を作成する際は、子どもの行動パターンをいくつも予測してプログラム構成を考えることが必要である。
- 子どもが落ち着いて取り組めるように、プログラムに動と静を取り入れた構成にすると良いと思った。
- 子どもの行動を予測して、安全面への配慮を考えるべきであった。
- 場面における言葉かけをもっと考えておくべきだった。

() 内数字は件数

考 察

模擬保育後の「ふりかえりシート」における5段階評価において指導者、幼児役の双方で評価が低かったのは、「安全面への配慮」であった。指導者の学生はプログラムを計画した際に、教材（道具）の効果的な扱い方と幼児（役）の動きを考えた上で、指導プログラム（指導案）を作成し、指導に臨んだ。しかし、実際に動いてみると予想してなかった人や物の動きと教材（道具）を使うことの難しさに直面した。また、その突発的な出来事への臨機応変な対応にも欠け、安全面に欠ける場面が発生した。指導者の気づきにもこの点を反省するコメントが多くあり、学生間の討議においても、特にこの件が指摘され討議された。この一連の「ふりかえり」をとおして、様々な角度から客観的に模擬保育を分析することができた。そして、どこに注意が必要だったか、人や物の動きはどう変化するかといったことを十分検討することができたようであった。指導者の学生はもちろん幼児役の学生においても、この模擬保育後のふりかえりは、学生自身が指導における重要課題に気づききっかけをつくり、その後の幼児指導につなげる手がかりとなったことが示唆された。これら模擬保育後のふりかえりで得られた気づきを幼児指導に役立てるべく、何度も話し合いを重ね、幼児指導に臨んだ。その際、ボランティアで関わっている幼児の姿を思い描き、意識しながら計画を練り、思

いつく限りのシミュレーションも行っていた。しかし、実際の幼児はその予想をはるかに超えるものであったようだ。特に、子どもの姿には驚かされている様子であった。その場面をとらえた箇所を図8に示す。これは、同じ場面における模擬保育時と幼児指導時の様子である。導入の部分では、模擬保育において幼児役は静かに聴いていたのに対し、幼児指導では、途中、幼児から様々な発語があり、それに応じるための中断がみられた。ときには1人の発語に促されて他の幼児も一斉に発言し始め一時的に騒然となる場面もあった。幼児指導後のふりかえりのコメントにもあげられているように、「幼児は何にでも反応し、はしゃいだり、騒いだりする」ということをあらためて感じたようであった。ただ、それ自体はよく起こりうることで問題ではない。それへの対応を考えていなかったことが課題である。それを解決するためには普段から幼児の行動をよく観察し、それを模擬保育で活かすことであろう。指導者となる者がその対応を考えるべきであることは尤もなことであるが、それにも増して幼児役となった学生が、「幼児を十分理解してなりきる」ことも重要である。筆者らは、このことが模擬保育を行うことの意義の一つであると考えている。「幼児になりきる」ためには、幼児を十分理解することが必要であり、幼児を十分理解することで、「予想される幼児の姿」を描くことができ、指導上の援助や配慮、留意点へとつなぐことが

図8 模擬保育と幼児指導における場面の比較



できる。この点を今後の学生指導の重要課題として捉えたい。

また、同じようなことが展開でも起こっていた。図8の展開は「泳ぎ」のシーンであるが、模擬保育における幼児役の学生は立ったままの姿勢で泳ぐ表現をしていた。それに対して、幼児指導における実際の幼児は、誰かが寝ころんで泳ぐ表現をしたのを皮切りに全員が寝ころんで泳ぐ真似をしたり、思いのままダイナミックに表現していた。学生のコメントにも「予想外の子どもの動きや反応があり、シミュレーションしたときには想像しなかったことが多々あった。」「子どもの発想や表現は多彩で、想像以上に豊かですばらしかった。」とあるように、普段、幼児と接する機会が多く、ある程度「子どものことは知っている」と自負していただけない、その予測との違いには考えを新たにさせられたようだ。この幼児指導では、実際の幼児の

様々な行動や反応を知る良い機会となったようである。

一方、模擬保育でも課題となっていた「安全への配慮」であるが、予測できない幼児の行動に十分に対応できず、安全面への配慮に欠ける場面があり、幼児指導においても評価は最低であった。そのような場面を図8の展開に示した。これは「波に乗って遊ぶ」場面で、波に見立てたブルーシートをくぐって波をかわすシーンである。幼児指導において、はじめのうちは、模擬保育と同じように波に見立てたブルーシートの下をくぐりながら泳ぐという身体表現遊びを楽しんでいた幼児たちであったが、後半では、波（ブルーシート）を掴もうとする遊びに興味に移っていき、やがて一人の幼児がブルーシートを掴んだのをきっかけに、皆が掴むことに夢中になっていった。本来の目的であった波をくぐって泳ぐ身体表現遊びではなくなり収集がつかなくなった。中には掴んだ瞬間に足をすべらせ転倒

しそうになる子どもも出はじめ、中断することになった。ふりかえりの討議においても、この事態をどう回避すべきだったか、に話が集中した。模擬保育において課題であった「安全面への配慮」が、幼児指導においても克服することはできなかった。それは、学生たちのコメントにもあるように、学生が十分に幼児の行動を予測することができていなかったことにある。また、教材（道具）の選択や用い方にも問題があった（「海」をイメージするために下に敷いたブルーシートが滑りやすかった）ことがあげられた。これらを解決すること、つまり、教材の用い方の研究とともに、教材を実際に自分たちで使って遊んでみて、動きの実践をしてみることで指導技術を高める一歩であると考えたため確認することができた。

問題や課題に戸惑う場面も多くあったが、その一方で、問題が発生した際、臨機応変に対応できていることも多々あった。このことは、模擬保育でのふりかえりから、ある程度問題の見通しを立てることができていたためと推察される。また、模擬保育で十分なふりかえりを実施したことで、しっかりとした幼児指導の指導案も準備できており、その点がプログラム内容の充実（5段階評価も高得点）に繋がっていると考えられる。

このように、模擬保育から幼児指導へと指導実践を経験する中で、「ふりかえり」は次への課題を明らかにする手段として有効であった。しかも「ふりかえり」が個人だけではなく、グループや全体で討議することで「ふりかえり」の内容も深くなっていった。個人評価では、満足感・やりきった感の方が先立ち、評価が比較的緩い傾向を示す場合がある。特に、学生が個人で他者を評価する場合、同じ土俵にある仲間を好意的に評していることがよくある（経験的によく見かける）。模擬保育での幼児役割側の評価もその傾向が表れているのではないかと推察できる。しかし、ふりかえりの中で他者との討議を重ねていくうちに、少しずつ客観的に評価することができるようになっていく様子がみられ、第三者的に自分たちの指導を見つめ直すことができるようになっていった。人の意見を聴くことで、「自分では気づかなかったことへの気づき」「新たな発見」「課題解決へ向けた糸口」が生まれていったと考えられる。

本研究では、学生が模擬保育から幼児指導へと指導経験をすることで「ふりかえり」がどのように活かされていくか、その内容から検討していったが、活動後の「ふりかえり」が次への手がかりになることは確認できた。特に、討議をすることの意義は大きいと考えられた。ただし、その討議の展開を詳細に分析することはできなかった。今後、この討議の様子、展開にも着目し検討すべきであると考えた。また、「ふりかえり」によってすべての課題が解決できないことも解った。課題がすべて解決できるには、解決へ向けた何らかのプロセスがもっと必要であると考えられ、そのプロセスは何なのか、今後の研究で明らかにしておく必要性を実感した。

今後、これらの課題を含め、検討を積み重ねていきたい。

まとめ

本研究では、指導実践（模擬保育および幼児指導）後の「ふりかえり」に着目し、活動後の学生の「ふりかえり」がその後の指導にどのように活かされたか、事例をもとに検討した。その結果、以下のことが確認された。

- ・学生には、予測できない幼児の行動が多くあることがうかがえた。これまでも指導技術の向上のためには、まず、学生自身が幼児の姿を把握することの必要性を示唆してきたが、本研究においてもこの点を確認することができた。
- ・先行研究において、指導案で計画した活動内容を事前に学生自らが体験することの必要性を認めていたが、本研究でも同様のことが幼児指導を体験することで明らかとなった。特に、プログラム内容の活動を学生自らが予め体験することで、今回の課題の一つとなった教材（道具）を知る手がかりになるのではないかと考えられた。
- ・本研究においても「ふりかえり」が学生の気づきを促すきっかけになることが示唆された。

以上のことから、「ふりかえり」では、個人評価だけではなく、他者との情報の共有が自己だけでは気づかない点にも目を向けることができるとともに、他者からの見方を知ることでより深いものになることが示

唆された。

参考・引用文献

- 松本千代栄：ダンス表現学修指導全書表現理論と具体的展開。大修館書店，1980。
- 瀧信子，青山優子，下釜綾子：幼児の身体表現活動を引き出すための有効なプログラム（指導案）の検討について。日本保育学会第57回大会発表論文集，690-691，2004。
- 下釜綾子，青山優子，宮嶋郁恵，青木理子，井上勝子，小川鮎子，小松恵理子，重松三和子，瀧信子：幼児の豊かな身体表現を引き出す手だて。九州体育・スポーツ学会第54回大会号。47，2005。
- 瀧信子，青山優子，下釜綾子：幼児の身体表現を支える指導技術・技能について。日本保育学会第58回大会発表論文集，816-817，2005。
- 瀧信子，青山優子，下釜綾子：幼児の豊かな身体表現を引き出す手だて。第一保育短期大学研究紀要，17。31-43，2006。
- 瀧信子，矢野咲子，瀧豊樹：学生の指導力をたかめるための模擬保育の有効性と課題 - 身体表現活動の展開を通して -。第一保育短期大学研究紀要，18，1-18，2007。
- 矢野咲子，瀧信子，小川鮎子，下釜綾子，高原和子：保育者養成校における身体表現の段階的指導法 - 冬を題材にした活動 -。九州体育・スポーツ学研究。23(1)，95，2008。
- 矢野咲子，瀧信子，高原和子，瀧豊樹：身体表現活動における学生の指導力を高めるための指導方法。福岡こども短期大学研究紀要，20，9-16，2009。
- 高原和子，下釜綾子，瀧信子，矢野咲子：保育者養成校における身体表現の効果的な指導法。日本保育学会第62回大会発表論文集，148，2009。
- 瀧信子，矢野咲子，瀧豊樹：身体表現の授業における模擬保育の有効性と課題。福岡こども短期大学研究紀要，21，33-43，2010。
- 矢野咲子，瀧信子：学生の実践力を高める身体表現指導法の取り組み。福岡こども短期大学研究紀要，23，1-9，2012。
- 瀧信子，矢野咲子，瀧豊樹：保育者養成における「身体表現指導法」の取り組み。福岡こども短期大学研究紀要，24，1-7，2013。
- 矢野咲子，小川鮎子，下釜綾子，高原和子，瀧信子：身体表現における学生の育ちと課題 - 指導実践の振り返り(1) -。日本保育学会第66回大会発表要旨集，750，2013。
- 下釜綾子，小川鮎子，高原和子，瀧信子，矢野咲子：身体表現における学生の育ちと課題 - 指導実践の振り返り(2) -。日本保育学会第66回大会発表要旨集，751，2013。
- 高原和子，小川鮎子，下釜綾子，瀧信子，矢野咲子：身体表現活動における活動後の「ふりかえり」の有効性。日本保育学会第66回大会発表要旨集，752，2013。

付記

本論文は、「身体表現活動における活動後の『ふりかえり』の有効性」として第66回日本保育学会でポスター発表したものを加筆・修正したものである。